

自分の思いをうまく表現できない児童への理解と支援の在り方

新発田竹俣特別支援学校いじみの分校

森川 悟（平成13年度）

A児はコミュニケーションの困難と自傷行為があり、筆者が担当になっても思いや要求をうまく受け止められないことがあった。A児が何らかの表現方法でもっと自分の思いや要求を発信できるようになれば、A児の気持ちや思いをより多く受け止められるようになると考え、Woods&Wetherby(2003)が提案しているコミュニケーション改善の4つの要点を導入して介入プログラムを実施した。介入前後のA児の行動の比較から、自発的な要求回数が増え、要求内容の種類も増えており、4つの要点に沿った介入が有効だったことが分かった。また、複数のイラストカードの選択肢からやりたいことを選ぶことができるようになり、コミュニケーション能力の向上が見られた。今後は、あらたなコミュニケーションカードの内容の選定をし、検証時間以外の時間帯への汎化からコミュニケーション方法の定着を図っていきたい。